

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 63-032542
(43)Date of publication of application : 12.02.1988

(51)Int.Cl. G03C 1/71
G02B 5/20
G03C 5/00

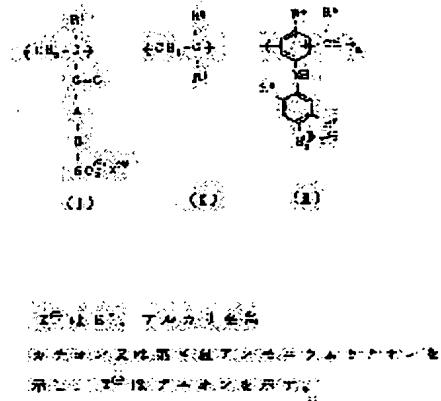
(21)Application number : 61-175158 (71)Applicant : MITSUBISHI CHEM IND LTD
(22)Date of filing : 25.07.1986 (72)Inventor : MIURA KONOE
OCHIAI TAMEICHI
MAKISHIMA HIDEO
SHINOZAKI MIKA

(54) DYEABLE PHOTOSENSITIVE COMPOSITION

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve the dyeability, qualitative stability and shelf stability by using a prescribed polymer and a prescribed diazo resin.

CONSTITUTION: A polymer having repeating units represented by formula I or II and a diazo resin having repeating units represented by formula III are added to produce a photosensitive soln. used to form a layer to be dyed. The dyeability is improved, the qualitative stability and shelf stability are also improved because no natural protein is used and environmental pollution is hardly caused because a chromium compound is made unnecessary. In the formulae IWIII, each of R1 and R2 is H or methyl, R3 is hydroxyl or a group contg. hydroxyl, A is O or -NH-, B is optionally substituted 1W6C alkyl, R4 is H or 1W5C lower alkyl, R5 is H, methyl or phenyl, each of R6 and R7 is H, methyl or ethoxy, n is an integer of 2W200, X⁺ is H⁺, an alkali metal cation or a quat. ammonium cation and Y⁻ is an anion.



LEGAL STATUS .

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑫ 公開特許公報 (A)

昭63-32542

⑬ Int.Cl.⁴G 03 C 1/71
G 02 B 5/20
G 03 C 5/00

識別記号

3 0 1
1 0 1
3 3 1

庁内整理番号

7267-2H
7529-2H
7267-2H

⑭ 公開 昭和63年(1988)2月12日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 染色可能な感光性組成物

⑯ 特願 昭61-175158

⑰ 出願 昭61(1986)7月25日

⑱ 発明者 三浦 近衛 神奈川県横浜市緑区鶴志田町1000番地 三菱化成工業株式会社総合研究所内

⑲ 発明者 落合 為一 神奈川県横浜市緑区鶴志田町1000番地 三菱化成工業株式会社総合研究所内

⑳ 発明者 牧島 秀夫 神奈川県横浜市緑区鶴志田町1000番地 三菱化成工業株式会社総合研究所内

㉑ 発明者 篠崎 美香 神奈川県横浜市緑区鶴志田町1000番地 三菱化成工業株式会社総合研究所内

㉒ 出願人 三菱化成工業株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目5番2号

㉓ 代理人 弁理士 長谷川 一 外1名

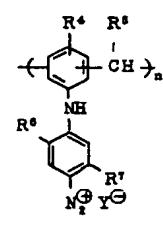
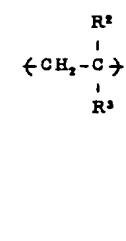
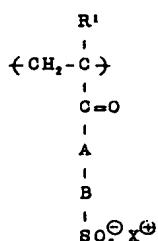
明細書

1 発明の名称

染色可能な感光性組成物

2 特許請求の範囲

(1) 下記式(I)及び(II)で示される繰返し単位を有する重合体と下記式(III)で示される単位を有するジアゾ樹脂を含有することを特徴とする染色可能な感光性組成物。



ルキレン基を示す。 X^+ は H^+ 、アルカリ金属カチオン又は第Ⅳ級アンモニウムカチオンを示し、 Y^- はアニオンを示す。 R^1 は水素原子、 $C_1 \sim C_6$ の低級アルキル基又は $C_1 \sim C_6$ の低級アルコキシ基を、 R^2 は水素原子、メチル基またはフェニル基を、 R^3 、 R^4 は水素原子、メチル基、メトキシ基、エトキシ基を示す。 n は 2 ~ 200 の整数である。)

(2) 式(II)中の R^3 が下記式

(式中、 R^8 は置換されていてもよい $C_1 \sim C_6$ のアルキレン基を示す。)

で示される基である特許請求の範囲第1項記載の組成物。

発明の詳細を説明

【産業上の利用分野】

((I) ~ (III)式中、 R^1 、 R^2 は水素原子又はメチル基を示し、 R^3 は水酸基又は水酸基を含む基を示し、 A は酸素原子又は $-NH-$ 基を示し、 B は置換されていてもよい $C_1 \sim C_6$ のア

ル基を示す。本発明は染色可能な感光性組成物に幽し、さらに詳しくは固体撮像素子もしくは蛍光管に搭

載する、あるいはカラーディスプレー等に使用する有機カラーフィルターの染色性層として良好に使用し得る感光性組成物に関する。

〔従来の技術〕

カラーフィルターの製造方法としては、

- ① 被染色層上にバターニングしたレジストを設け、露出している被染色層の部分を染色して染色層を形成後レジストを剥離し、その後に同様にして次の染色層を形成する。(単一の被染色層を複数の染色部分に染め分ける方法。)
- ② 被染色層を所定のパターンに露光し、現像した後染色して染色層を形成し、次いで、透明な耐染色性絶縁層を被覆後、その上に同様にして次の染色層を形成する。

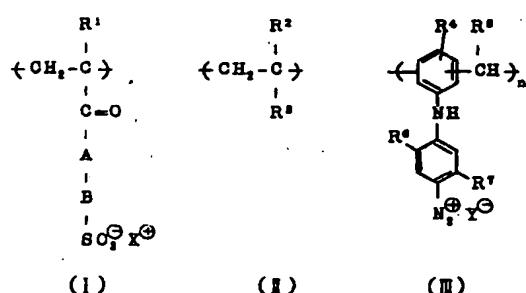
上記①の方法は、各染色部分の境界における色のじみ等の問題があり、一般には②の方法が広く行われている。

②の方法でカラーフィルターを製造する場合、従来、被染色層として、重クロム酸塩等で感光

しないため公害面の問題も含まないことを見出し本発明を完成した。

すなわち本発明の要旨は、次記の通りのものである。

下記式(I)及び(II)で示される繰返し単位を有する重合体と下記式(III)で示される単位を有するジアゾ樹脂を含有することを特徴とする染色可能な感光性組成物。



((I)～(III))式中、R¹、R²は水素原子又はメチル基を示し、R³は水酸基又は水酸基を含む基を示し、Aは酸素原子又は-NH-基を示し、Bは置換されていてもよいO₁～O₆のアキレン基を

性を付与された天然タンパク質、たとえばセラチン、グリニー、カゼイン、アルブミン等が使用されている。

また合成ポリマーとしてはアミン系の染色基を持つポリマーがいくつか提案されているが実用には至っていない。

〔発明が解決しようとする問題点〕

従来実用に供せられている被染色層として用いられる感光液は素材が天然タンパクであるためロット間バラツキが大きく品質管理上問題があり、また保存安定性も不良であつた。またクロムのクロムをしているため公害面でも問題を含んでいた。

〔問題を解決するための手段〕

本発明者等は上述したような従来の被染色層の欠点を解消すべく種々検討の結果、スルホン酸基もしくはその塩を側鎖に持つ繰返し単位を有する重合体を含む感光性組成物が染色性にすぐれ、かつ合成品のため品質安定性にすぐれ、保存安定性も向上し、かつクロム化合物を使用

示す。X[⊕]はH⁺、アルカリ金属カチオン又は第Ⅳ級アンモニウムカチオンを示し、Y[⊖]はアニオンを示す。R⁴は水素原子、C₁～C₆の低級アルキル基又はC₁～C₆の低級アルコキシ基を、R⁵は水素原子、メチル基またはフェニル基を、R⁶、R⁷は水素原子、メチル基、メトキシ基、エトキシ基を示す。nは2～200の整数である。)

本発明の感光性組成物は前記式(I)及び式(II)で示される繰返し単位を有する重合体及び前記式(III)の単位を有するジアゾ樹脂を含有する。

繰返し単位(I)は染色性を与えるのに不可欠の要素であり、繰返し単位(II)及びジアゾ樹脂(III)は感光性を与えるのに不可欠の要素である。前記重合体は繰返し単位(I)、(II)以外に1つ以上の他の繰返し単位を含んでも良い。かかる繰返し単位の例としてはアクリル酸エステル、メタクリル酸エステル、ビニルアセテート、ステレン、ビニルピリジン、エチレン、

セリジン、エターレ、ビニルクロライド等のモノマーから誘導される単位が好適に用いられる。繰返し単位(I)は3モル%以上、好ましくは5モル%以上、繰返し単位(II)は $\frac{3}{5}$ モル%以上、好ましくは $\frac{5}{5}$ モル%以上含まれているのが望ましい。

繰返し単位(I)がそれ以下であると充分な染色性が得られず、繰返し単位(II)がそれ以下であると充分な感度が得られない。

本発明に用いる前記重合体は式(I)を与えるアクリル系モノマー式(II)を与えるモノマーさらに必要であれば第3のもしくはそれ以上のモノマーをアゾビスイソブチロニトリル、過酸化ベンゾイル等のラジカル開始剤を使用し、公知の方法に従いラジカル共重合することによつて容易に得ることが出来る。

本発明に用いる前記式(I)、(II)を有する重合体は30℃での固有粘度が通常0.05～3.0dl/g、好ましくは0.1～2.0dl/gのものが用いられる。

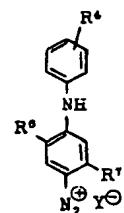
3～50部、好ましくは5～30部が用いられる。

ジアゾ樹脂のアニオン Y^- としてはハロゲンアニオン、 BF_4^- 、 PF_6^- 、有機スルホン酸アニオン、カルボン酸アニオン、 HSO_4^- 、 HSO_3^- 、 ZnO_4^{2-} 、リン酸アニオン、リン酸水素アニオン等が好適に用いられる。

通常は上記重合体及びジアゾ樹脂(III)双方を溶かすような溶媒、たとえばエチレンクリコール等のアルコール系溶媒、メチルセロソルブ、エチルセロソルブ等のセロソルブ系溶媒、ジメチルホルムアミド(DMA)、ジメチルスルホキシド(DMSO)、ヨーメチルビロリドン、水等の極性溶媒が好適に用いられる。

感光液そのものは、通常ジアゾ樹脂のため可視領域に吸収を持つているが、スピンドーテイング、キャステイング、ティップ法などで基板上に薄膜を作り、可視光、紫外光等で露光を行えばジアゾ樹脂は分解し実用レベルの透明性が確保出来る。

前記式(III)で示される単位を有するジアゾ樹脂はジアゾニウムジフェニルアミン、もしくは下式で示される置換ジアゾニウムジフェニルアミンと、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、ベンズアルデヒドのアルデヒドを酸性触媒の存在下、重結合させる公知の方法で容易に合成される。重合度 n は2～200であり、好ましくは2～50のものが使用される。



R^6 は水素原子、 $C_1 \sim C_5$ の低級アルキル基又は $C_1 \sim C_6$ の低級アルコキシ基を、 R^6 、 R^7 は水素原子、メチル基、メトキシ基、エトキシ基を示す。

繰返し単位(I)、(II)を含む重合体とジアゾ樹脂(III)の比率は該重合体100部に対し通常

現像液としては前述した溶媒の1つもしくはその中から選ばれる任意の混合溶媒にて現像される。

本発明の感光性組成物は水溶性染料特にカチオン染料により好適に染色することが出来る。

以下本発明の感光性組成物を用いたカラーフィルターの一例につき図面を用いて更に詳細に説明する。

第1図(a)～(j)は直付型カラーフィルターの製造工程の一例を示す説明図である。

図中1はシリコンウェハー、2は光検知部、3は保護膜、4は平坦化層、5は被染色層、6はマスク、7は耐染色性絶縁層、8はポンディング・バッド、9は被染色層、10は表面層、をそれぞれ示す。

直付型カラーフィルターの場合は固体顕像粒子面上に直接カラーフィルターが設けられるものであり、その基体となる固体顕像粒子は例えば第1図(a)に示すようなシリコンウェハー1に光検知部2が設けられ、その上面にリンガラス、

石英等の保護膜³が設けられた構造とされている。固体撮像素子にはその他、走査線、遮光膜等が設けられているが、図面には省略した。

本発明のカラーフィルターは上述のような固体撮像素子の上面に形成するもののほかに液晶カラーデイスプレー等にも使用出来るが、ここでは固体撮像素子に応用する場合について工程順に説明する。

まず固体撮像素子の保護膜³の上に0.2~2.0μ程度の厚さに平坦化層⁴を被覆する。この平坦化層は耐染色性があり、透明で染色層と充分な接着力を有し感光性を持つものなら何でも良いが後述する耐染色性絶縁層²と同じものを使用すると便利である。この層によつて光検知部の表面が平坦化され、被染色層⁵、耐染色性絶縁層²等の形成が容易となり、また被染色層⁵の厚みむら等に基づく色のヒズミ等が軽減される。次いでこの平坦化層⁴上に所定のポンディングバッド⁶等を加工する(第1図(d))。

この平坦化層⁴の材質、ポンディングバッド

組成物であれば何でも良いが、たとえば我々が~~たとえば我々が~~先に提案した感光性組成物(特開昭60-21044)等が好適に用いられる(第1図(d))。平坦化層⁴に本感光性組成物を使用した場合も同様の操作でポンディング・バッド⁶等の加工がなされた透明な平坦化層⁴を得ることが出来る。

次いで、該耐染色性絶縁層²上に、前述と同様にして被染色層を構成するため本発明の感光性物質を塗布し、露光、現像して所定のパターンの被染色層部分を形成する。そして、所定の分光特性を有する第2色目の染料で染色して第2の被染色層⁵を形成する(第1図(e))。

かかる操作を繰返し、耐染色性絶縁層を介して更に他の被染色層を形成してもよい。

被染色層としては、赤、緑、青の三原色系の3種を用いることもあるが、シアン、緑、黄の補色系の3種を用いることもある。その際、例えば、第1のシアンの被染色層に、第2の黄の被染色層を一部重なるように形成して、その重

との加工方法については後に耐染色性絶縁層²の説明と合せて述べる。

次いで平坦化層⁴上に本発明の染色可能な感光性組成物を塗布して被染色層⁵を構成するための感光性物質層を形成する(第1図(f))。

被染色層⁵を構成するための感光性物質層は、通常、0.1~2μとなるよう設ける。

次いで、被染色層⁵を構成するための感光性物質層上に所定のパターンを有するマスク⁶を通して露光する(第1図(g))。

通常は高圧水銀燈等を光源として露光する。

次いで、前述したような現像液で現像して所定のパターンの被染色層⁵を構成する部分を形成し(第1図(h))、所定の分光特性を有する第1色目の前述したどとき染料で公知の方法に従い染色して被染色層⁵を形成する。

次いで、耐染色性絶縁層²を形成するための感光性樹脂組成物を被覆する(第1図(i))。

この耐染色性層としては耐染色性、基板及び染色層、無色透明性、塗布性が良好な感光性樹脂

なり部分で第3色目の緑色を得るようにしてよい。

通常、最上部の被染色層上に、表面の平滑化、或いは染色層の保護のために表面層¹⁰を設ける。

表面層¹⁰としては、強度、透明性、中間層及び染色層との密着性及びポンティング・バンド部などの加工性が要求され、その要求を満たしたものならなんでもよいが、前述の感光性組成物を使用しても良い。

表面層¹⁰は通常0.1~2μの膜厚となるように設けさらに露光現像して所定のポンディング・バンドなどの加工を行なう(第1図(j))。

以上のようにして、本発明のカラーフィルターを得ることが出来るが、本発明のカラーフィルターは被染色層の品質管理が容易であるため高い品質の固体撮像素子が安定生産出来るのである。液晶カラーディスプレーに応用した際も同様の効果があることはいうまでもない。

〔実施例〕

以下実施例により本発明を更に具体的に説明する。

合成例1

メチルメタクリレート / 0.1 g、ヒドロキシルエチルメタクリレート 2.1 g、2-アクリルアミド 2-メチルプロパンスルホン酸 / 0.35 g をエタノール 300 ml に溶解し、窒素ガスで充分脱気を行う。

反応系を窒素雰囲気に保つたまま 60℃に加熱し、アゾビスイソブチロニトリル 0.27 g を加え、60℃で 6 時間反応させる。反応後、反応液をローへキサン / 400 ml 中に滴下し、ポリマーを析出させ、析出したポリマーを再びエタノール / 100 ml に溶解し、600 ml の水に滴下して再沈し、真空乾燥機で乾燥した。

収量 / 1.97 g、収率 53.1%、固有粘度 $\eta_{sp}/c = 0.243$ (エタノール中 30℃、c = 0.2 g/dl)

バプリングする。ついで窒素雰囲気を保つたまま 60℃加熱し、アゾビスイソブチロニトリル 0.35 g を加え 60℃で 6 時間反応させる。反応終了後反応混合物を 450 ml のローへキサンに滴下しポリマーを析出させ、析出したポリマーを沪別後タマゴのアセトンに溶解し 300 ml のメタノール中に滴下して再沈し、沪別後減圧下に乾燥する。

収量 / 0.3 g (78%)、固有粘度 $\eta_{sp}/c = 0.35$ (THF 中 30℃、c = 0.2 g/dl)

実施例1

合成例1 のポリマー / 1.5 g、ジアゾニウムジフェニルアミンとホルムアルデヒドから得た平均重合度 6 のジアゾ樹脂 0.12 g をエチルセロソルブ / ニーメチルヌーピロリドン = 8/2 (重量比) の混合溶媒 8.5 ml に溶解して全体を 1.0 g とし 0.2 μ の "ミリポアフィルター" で沪過して感光液を得た。この感光液を 2 インチ Ø 0.5 mm 厚テンペックス製ガラス基板上にスピンドルティング法 (1000 rpm) で 1.2 μ の厚さ

合成例2

メチルメタクリレート / 3.38 g、ヒドロキシルエチルメタクリレート 2.1 g、2-アクリルアミド 2-メチルプロパンスルホン酸 3.46 g をエタノール / 50 ml に溶解し、窒素ガスで充分脱気を行う。

反応系を窒素雰囲気に保つたまま 60℃に加熱し、アゾビスイソブチロニトリル 0.27 g を加え、60℃で 6 時間反応させる。反応後、反応液をローへキサン / 400 ml 中に滴下し、ポリマーを析出させ、析出したポリマーを再びエタノール / 100 ml に溶解し、300 ml の水に滴下して再沈し、真空乾燥機で乾燥した。

収量 / 4.5 g、収率 76.6%、固有粘度 $\eta_{sp}/c = 0.16$ (エタノール中 30℃、c = 0.2 g/dl)

合成例3

クリシジルメタクリレート / 6.0 g、シンナモイルオキシエチルメタクリレート 2.7 g をタージオキサン / 40 ml に溶解し、30 分窒素で

に塗布した。

感度、解像力、染色性、透明性、接着性についてそれぞれ以下に述べるような方法で評価を行つた。

(1) 感度 --- 総少投影露光機 (キヤノン製ステッパー FPA-141) を用いて露光後 45℃で 1 分間の水現像を行つた。それぞれの露光量において得られた膜厚をテンコール錶製膜厚計 Ø-ステップで測定し感度曲線を作製し残膜率 50% を与える照射エネルギー量をもつて感度とした。

(2) 解像力 --- 解像力テスト用マスクを用い、総少投影露光機 (キヤノン製ステッパー FPA-141) を用いて、感度評価の場合と同じように露光現像後得られた像を光学顕微鏡 ($\times 500$) 観察し解像している最小のラインアンドスペースの巾をもつて解像力とした。

(3) 透明性 --- ミカサ錶製マスクアライナー M A-10 を用いて全面露光、現像後、日立錶製分光光度計 300 を用いて 380~780

mm の分光透過率を求めた。

- (4) 染色性 --- ミカサ㈱製マスクアライナーM A-10 を用いて全面露光現像した基板を後に述べる染色条件で黄色又は青色に染色しリソス後、日立㈱製分光光度計302 を用いて380~780 nm の分光透過率を求めた。

評価基準は次記の通りである。

- : T_{min} の透過率が 10 % 以下のもの
- × : T_{min} の透過率が 10 % 以上のもの

- (5) 密着性 --- 粘着テープ（セロハンテープ）を指圧によりよく接着し、これを剥離することによりガラスとの接着性を評価した。

また、平坦化層の上面に実施例と同様にして染色層を形成し上記と同様粘着テープで接着強度を評価した。

評価基準は次記の通りである。

- : 全く剥離しないもの
- × : 一部でも剥離の見られるもの

実施例 2

合成例 2 のポリマー / 1.5 % 、実施例 1 と同じ

実施例 3

合成例 3 で合成した重合体 1.4 % に増感剤としてヨージベンジルメチレン - 3 - メチルナフトチアゾリン - 2 - ベンを加え、シクロヘキサンに溶解して全体を 10 % とし、0.2 μ の " ミリポアフィルター " で沪過して感光液を得た。この感光液を、多数の光検知部とこれを駆動する駆動回路とからなる固体撮像素子の基板上に 0.2 ~ 2.0 μ 程度の厚さになるようにスピニコーティング塗布して平坦化層を形成した。

塗布した平坦化層は黄色味を帯びていた。この平坦化層を形成する樹脂層にポンディングバット等の所定のパターンを有するマスクを通して高圧水銀燈が装備されたマスクアライナー M A-10 (ミカサ㈱製) を用い 340 ミリジュール / cm² のエネルギー量で露光した後 20 °C のメチルエチルケトン / イソプロパノール - 2 / 1 (重量比) で 1 分間現像した。

得られたポンディングバット部などの加工がなされた平坦化層は黄色味が消え透明な層であ

ジアゾ樹脂 0.1 % をエチルセロソルブ / N - メチル - 2 - ピロリドン - 5 / 2 (重量比) の混合溶媒 5.5 g に溶解して全体を 10 % とし、0.2 μ の " ミリポアフィルター " で沪過して感光液を得た。この感光液を 2 インチ Ø 0.5 mm 厚テンパックス製ガラス基板上にスピニコーティング法 (1000 rpm) で 1.2 μ の厚さに塗布した。

次いで、縮少投影露光機 (キヤノン製ステップ - PFA - 141) を用いて露光後、20 °C のエチルセロソルブで 1 分間現像した。

感度、解像力、染色性、透明性、接着性について実施例 1 と同様の方法で評価した。

項目 例	感度	解像力	透明性	染色性	密着性
実施例 1	144 mW/cm ²	4.5 ~ 5.0 μ	全領域 T > 95 %	○	○
実施例 2	72 mW/cm ²	3.0 μ	全領域 T > 95 %	○	○

つた。

次いで、この平坦化層上に実施例 1 と同様に作成した感光性組成物を膜厚が 1 μ となるようにスピニコーティングにより塗布して、被染色層を形成する感光性物質層を形成した。

この被染色層を形成する感光性物質層に所定のパターンを有するマスクを通して前記と同じ装置を用い 340 ミリジュール / cm² のエネルギー量で露光した後、25 °C の水で 1 分間現像した。次いで、60 °C で 5 分ポストペークを行つた。

酢酸で pH 3.5 に調整したダイアクリルイエロー 3G-N (三菱化成工業㈱製) (ダイアクリルは三菱化成工業㈱の商品名) の 0.2 % 水溶液中に 60 °C で 5 分間浸漬し染色処理して被染色層を形成した。

次いで平坦化層と同じ組成の感光性組成物を膜厚が 0.5 μ となるようにスピニコーティング塗布し、平坦化層の場合と同様に露光、現像して透明かつポンディング・バット部などの加

工がなされた耐染色性絶縁層を形成した。

次いで、この耐染色性絶縁層上に前述と同様にして染色可能な感光性物質層を形成し、前述と同様に露光現像した後、酢酸でpHを3.5に調整したダイアクリルブリリアントブルーHGR-N（三菱化成工業製）の約0.1%水溶液で60℃、5分間染色処理して被染色層を形成した。

次いで、表面層として平坦化層と同じ感光性組成物を膜厚0.5μとなるようにスピンドコートイングにより塗布して前記と同様の条件にて露光、現像してポンディング・パッド部等の加工のなされた透明な表面層を形成しカラーフィルターが直付された固体カラー撮像素子を得た。

〔発明の効果〕

本発明の組成物は感光性を有し、しかも染色性に優れているものであり、例えば固体撮像素子等に搭載する有機カラーフィルターの染色層等として好適に用いることができる。

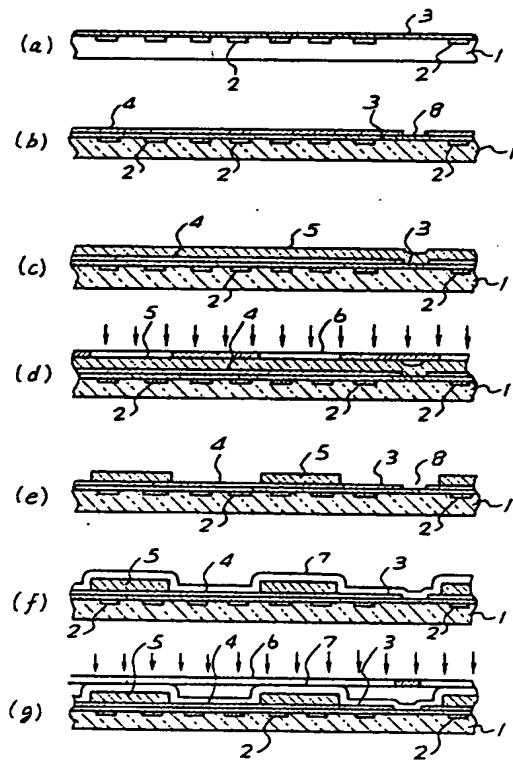
図面の簡単な説明

第1図(a)～(j)は直付型カラーフィルターの製造工程の一例を示す説明図である。

図中1はシリコンウエハー、2は光検知部、3は保護膜、4は平坦化層、5は被染色層、6はマスク、7は耐染色性絶縁層、8はポンディング・パッド、9は被染色層、10は表面層をそれぞれ示す。

出願人 三菱化成工業株式会社
代理人 弁理士 長谷川 一
(ほか/名)

第1図(その1)



第1図(その2)

